

令和 7 年度 富谷市立日吉台小学校 学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 1 6 日

学校関係者評価委員会

氏 名

氏 名

氏 名

1 総評

(1) 本校の今年度の重点目標とその取組状況について

○「支持的風土を持った学級集団をつくり、協働的な学びを推進する」

- ・ 机の配置を工夫し、グループごとの話合いや児童同士の教え合いが積極的に取り入れられており、学び合いを基本とした授業がなされていた。また、学級単位で工夫を凝らした授業の実践がなされており、教職員の熱意が感じられた。
- ・ 校内研究の研究主題を「主体的に学び合う児童の育成」と設定し、全校授業研究会や学び合いの学習研修会等が年間を通じて実施されており、課題解決に向けた児童の学びに対する振り返りも丁寧に行われていた。児童だけでなく、教職員も学び合い、一丸となって取り組んでいた。
- ・ 重点目標の実現に向け、職員の意識が高まり、組織全体で前向きに取り組んでいる姿勢が感じられた。児童を温かくかわいがり、優しいまなざしで見守ることは教育の原点でもあるので、挑戦し、解決していく体制をこれからも教育活動の中で展開して欲しい。「考える、思いやる、挑戦する」3つの力を育成し、児童の意欲を引き出すために、更なる指導や工夫された授業づくりを継続して欲しい。

(2) 成果について

- ・ 心に届く元気な挨拶や児童の仲の良い関係性が見られ、明るい学校づくりができている。
- ・ 児童が自主的に動き、挑戦していく姿がすばらしい。誰かのために行動する気持ちが育つような学級づくりができている。互いを認め合い助け合う気持ちが自然と生まれ、児童が日々大きく成長しているのを感じた。
- ・ 「認め合い」「助け合い」「期待を掛け合い」「高め合う」ことができる学び合いのある充実した授業づくりによって成果があった。
- ・ グループ学習で、互いの話を聞き、積極的に発言する場面や教え合う姿、学び合う姿が見られ、着実に学び合いの学習が児童に身に付いている。
- ・ どの学級でも、児童が生き生きと主体的に、仲間と共に一緒に学び合おうとする姿が見られ、長年取り組んでいる学び合いの学習の成果が確認できた。
- ・ 児童の輝く目や自分の考えをしっかりと発表する姿、相手の話を真剣に聞こうとする姿勢に、「子どもの幸せを願ってやまない学校」づくりの確実な成果を実感した。

- ・教職員のきめ細かな指導や努力、保護者の意識の高まりがあり、保護者と教職員が信頼関係を持つことができるようになった。

(3) 課題や改善を要する事項について

- ・「一人一人に応じたきめ細かな指導」について、学び合いの学習や個別指導できめ細かな指導を実践し、ICTを活用した分かりやすい授業を工夫して、保護者も実感できるような取組をしてほしい。
- ・避難訓練や引き渡し訓練は定期的に行われているので、マニュアルに頼らず、状況に応じたスムーズな対応ができるように教職員で話し合っ取り組んでほしい。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん、食育」について、家庭との連携が不可欠なので、保健だよりや長期休みの生活などのお便り等の発行を継続してほしい。
- ・ゲームやスマホなどメディア使用の指導については、家庭と連携し、使用上のルールを作っつけじめを持たせることが大切である。
- ・これまで、学校の取組が保護者に伝わっていないことが気になっていたが、今年度は保護者アンケートの結果が向上しており、学校理解が深まっているので継続してほしい。

2 各領域等の評価

領域	評価の観点	評価	意見・改善案等
学校運営	1 開かれた学校づくり	A	・昇降口に児童の笑顔あふれる写真が掲示されており、本当に学校が楽しい居場所になっていると実感できた。
	2 魅力ある学校	A	・教育目標の達成に向け、教職員全員で、思いやりを持ち、命を大切にする素直な子供を育てようという意識で取り組む姿勢がすばらしい。
	3 施設・設備	A	・教職員が工夫を凝らした授業を行っており、誠意と熱意を持って温かく児童に接している姿勢が感じられた。
	4 安全管理	A	・児童がのびのびと授業を受けており、知る喜びを感じられるように配慮がなされている。 ・誰かのために行動できる集団となるために、係活動や当番活動、清掃活動などを行っており、友達のことを考えて教室の整頓をするなど自主的に行動する姿に成長を感じた。
	5 教職員の資質の向上	A	・長年、PTAや地域からも要望してきたグラウンドの暗渠工事が実施され、設備の充実が図られた。 ・PTAによる「保護者目線の安全点検」を実施し、外部の意見を取り入れている。
	6 特色ある教育活動等	A	・児童の安全確保のために状況に応じた安全管理がなされている。 ・校内研究や一人一授業の公開を通じて教職員の資質向上が図られた。

教育課程	1 確かな学力	B	・分からないことをそのままにせず、学級の仲間と教え合い、学び合うことで、分かったことが再確認でき、互いに確かな学力を身に付けることにつながっている。
	2 豊かな心身	A	・理科室、家庭科室、図工室、イングリッシュルーム等の特別教室が日常的に活用され、教室とは違った学びの場の工夫が見られた。
	3 特別活動	A	・個別対応が難しいようだが、指導方法を改善しながら努力を続けてほしい。
	4 生徒指導・教育相談	A	・家庭学習の習慣化を図るため、効果的な取組などのしおりを作成し、家庭に働き掛けてほしい。
	5 特色ある教育活動等	A	・教室や廊下の掲示物は、自分の存在、頑張りを確認したり、友達とほめ合ったりする場になっており、相手を思いやり、認め合う行動へとつながっている。
課題教育	1 環境教育	A	・運動会や音楽発表会での児童の生き生きとした表情や態度に成長を感じた。
	2 情報教育	A	・音楽発表会はすばらしい発表だった。学級全員で協力し、挑戦した結果が児童の笑顔にあふれ出ていた。
	3 特別支援教育	A	・整理整頓が行き届いており、教室内、廊下がきれいに清掃されていて気持ちよい環境となっている。
	4 図書館教育	A	・特別支援学級で、個々の特性に応じた取組が積極的になされていた。自立への基礎づくりとしての取組も行われており、丁寧な支援がされていた。
	5 健康教育	A	・特別支援学級で、「ぽかぽかことばがいっぱい」と題して「いっしょにあそぼう」「ありがとう」等の暖かい言葉が掲示されており、教育の原点があると感動した。
	6 特色ある教育活動等	A	・健康教育については、家庭での食生活も大切であり、朝ごはんをきちんと食べさせるなどの家庭の協力が必要である。親子で会話しながら食事をすることで、食の大切さを学んでほしい。
			・家庭と連携して生活習慣を整えるための元気アップチャレンジを行っていた。ノーマディアチャレンジシートを有効に活用して、親子で生活習慣を改善していったほしい。
			・児童が主体となって「なかよしクリーン」や「ひまわりフェスティバル」を開催され、異学年が交流する活動が活発に行われていた。高学年児童の、参加者を楽しませようと努力する姿が印象的だった。児童が発案した「あいさつスポット」の活動も良かった。

地域との連携について	A	・地域からのボランティアを積極的に受け入れているが、ボランティアの方々と触れ合うことは、児童が地域とのつながりを実感し、成長するために大切な活動となっている。 ・地域の教育力を生かし、地域の方を講師に川柳教室が毎年実施されており、児童も地域との交流の場を楽しみにしていた。 ・とみやマーチングフェスティバルや公民館まつりに金管バンドが出場したことで、地域でも日頃の活動の成果を見て、地域で応援することができた。 ・地域と連携した活動を行うことで、児童が地域の一員としての自覚を持ち、共同体としての意識を養うことができる。地域でできることを考え、誰かのために行動できる子供に成長してほしい。
いじめ問題への取り組み	A	・定期的なアンケート調査などを行い、いじめや児童の悩みに素早く気付いて対応する体制が作られている。 ・教職員が学年でチームを作って児童を見守ることで、児童への目の配り方が幅広くなっている。 ・小さなことでも相談しやすい環境が整えられている。学校だけでなく、富谷市や宮城県等の相談機関が学校だよりを通じて、分かりやすく保護者に紹介されていた。 ・学校重点目標の指導を通じて、互いを認め、異なる意見を受け止めたたり、自分の思っていることを話せたりする環境づくりが進んでいる。